

勤続5年10年20年表彰者紹介(敬称略)  
おめでとうございます。



- 延田 健一 (勤続5年)
- 松岡 夏枝 (勤続10年)
- 宮岡 尚子 (勤続20年)
- 村上 賢 (勤続10年)
- 里村 佳子 (勤続20年)
- 前川 芽衣 (勤続5年)
- 金沖 由宇子 (勤続5年)
- 奥 郁子 (勤続5年)
- 荒光 香 (勤続5年)
- 谷本 愛美 (勤続5年)
- 鈴木 圭子 (勤続5年)
- 水西 聡己 (勤続5年)
- 難波 証一 (勤続5年)
- 石田 美鈴 (勤続5年)
- 梶原 里美 (勤続5年)

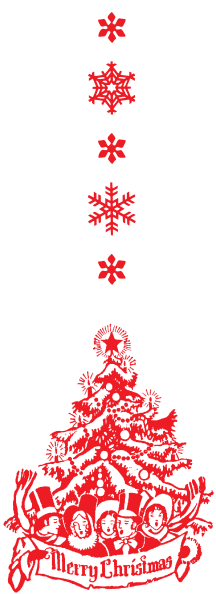
語られます。確かに私たちは頭では隣人を愛し、接する全ての人々に愛をもって接したいと願ってはいるのですが、現実の人間関係においては、自己中心、自己優先になり、世間の常識や評価に強く影響されて、そういう心の眼鏡を掛けたまま人々に接してしまいがちです。そのような私たちにマザーテレサの歌「主よ、今日一日、人というだけで、どんな人々も愛するために、私の心をお望みでしたら、今日、私のこの心をお使いください」は心が問われる歌詞です。「人というだけでどんな人々も愛する」、それは歌い、口で言うことは易いことですが、心からそうすることはとても難しいことです。そんな私たちにとってイエス様こそ做すべきお方です。

ルカ19章には、一世紀のローマ帝国社会で属領とされた祖国の同胞から、ローマへ納める税金を取る徴税人となり、同胞から卑しめられ、それに抗して金を力としながらも心の底には寂しさを抱えていたザーカイがイエス様に出会って新しい人間に変えられたことが記されています。ザーカイもイエス様を一目見たいと群集がイエス様を取り巻いている所に駆け付けましたが、人垣に阻まれて見ることができませんでした。彼は先回りして高い木に登り一行を待ちました。イエス様はその木の下まで来られると、

上を見上げて下から「ザーカイ、急いで降りてきなさい。今日はぜひ、あなたの家に泊まりたい」と声をかけられました。イエス様は全ての人をかけがえのない尊い存在として見ておられました。ザーカイはイエス様から名前を呼ばれ、目と目が合うと、そこに人を人というだけで愛されるイエス様の深い愛を感じました。その時、今まで自分は人より金持ちだという高い木に登り、周りを下に見返していた心がいつべんに折れて、彼は下に降りてきて、イエス様を自分の家に招き入れました。ザーカイの心はイエス様からの愛で満たされると、イエス様への愛、人々への愛が溢れてきて、今まで自分を支えてきたお金も他者のために使うことができるようになります。

人はイエス様に出会い、イエス様の愛を受けることによって、自分にその尊さを回復するばかりか、イエス様の愛に応えて、人というだけで、どんな人も愛せる様にと押し出されていくのです。私たちもイエス様に倣い、下からその人を神に造られた尊い存在として尊び愛して参りましょう。

このベタニアホームが建てられた目的、その理念に従ってキリストの愛に做う施設でありますようにと心から願い、神様の祝福をお祈り致します。



クリスマスおめでとうございます。  
新年の祝福をお祈りします。 呉ハレルマ会一同

### 被災する高齢者への支援

統括施設長 里村 佳子

7月7日(土)早朝、スタッフから「道が川のようになっています」と電話がありました。その後、豪雨の影響で道路が通行止めになり、断水の知らせも入ったのです。

いつ断水してもいいように貯水しましたが、数日経っても断水は解除されませんでした。そんな中、入浴できない高齢者が多くいるのに気がきました。

私たちの施設は断水していませんので、困っている人たちのために施設を開放して、入浴支援をしたいとスタッフに相談すると、快く賛成してくれました。

早速、行政や地域包括支援センターなどに連絡して、入浴できない高齢者やその家族を受け入れたところ、たいそう喜んでいただきました。

さらに、呉地区の福祉施設救済物資拠点として、できる支援をすることにしました。

また、海外や全国からのボランティアのために宿泊先として施設を開放しました。

炎天下、過酷な作業に愚痴もごぼさず、讃美歌を歌いながら土砂を取り除くボランティアの姿に、被災した人たちだけではなく私たちも勇気をもりました。

### 台湾からの留学生

相談員 中 勇人

7月6日、呉ベタニアホームへ台湾からの留学生、張詩悦さんがいらっしゃいました。

上手な日本語でご利用者と笑顔で話をされ、「広島の方が難しい」と、悩んでいたのも印象的です。

台湾のことを皆さんに知って欲しい、とケアハウスとデイサービスのご利用者へ向けて台湾の紹介をして頂きました。呉市と台湾の基隆市が姉妹都市であることにも触れ、国際交流の良い機会となったと思います。

西日本豪雨の大変な時期で、十分な歓迎は出来ませんでした。張さんにはたくさん助けて頂きました。ありがとうございました。



張詩悦さんと発表の様子



### グループバリデーション

計画作成者 新野 香帆

10月14日(日)、グループバリデーションについて施設内の研修会で、研究発表を行いました。

バリデーションとは、認知症の人の感情や経験を認め、共感し、コミュニケーションする方法です。定期的に固定のメンバーで集まり、参加者に役割を持っていただきます。

今回の流れは、①議長の挨拶 ②始まりの歌③議題について話し合い ④ゲーム ⑤おやつ ⑥終わりの歌 ⑦議長の挨拶です。

接待係は、おやつの際に全員へ飲み物を配り、空のカップを受け取られていました。

それぞれ役割に責任を持ち、やりがいを感じているようでした。話し合いでは、哲学的な議題でも意見を出し合い、答えを導き出され、高齢者の内在する力を目の当たりにしました。

初めは全体に緊張感がありましたが、回を重ねると、笑顔に溢れ、場の空気が和んでいきました。更に、参加者全員が互いを気遣う様子が多くなりました。他者への優しい声掛けが増えたのです。実施中は、参加者が穏やかに過ごされ、グループバリデーションの治療の効果を実感しました。また、グループの一体感や信頼関係も深まったのではないのでしょうか。